

整形外科 後期研修プログラム

Plastic surgery residency program

目標 整形外科的疾患を有す患者を診察し、医師として整形外科的疾患に対し適切な判断、最初の必要処置を行い得る段階までを目標とする。

前期
1・2 年次

1. 整形外科認定医あるいはそれに近い経験のある整形外科医と組み（組み合わせは適時変更）その指導のもとに研修を行う。
2. 研修で会得した整形外科的疾患に対する診断、治療、処置などについて自己評価を行ない Check を受ける。
3. 各分野における疾患（外傷性疾患、先天性疾患、疼痛性疾患、炎症性疾患など）についてのレポートをまとめる。
4. 最低1回は、学会（研究会を含む）において発表し、少なくとも一編の論文をまとめてこれを投稿する。
5. 救急・災害外科に関しては、可能な限り対面し、これらの患者に対して適切な診断・処置が行えるよう指導。

外来診療

午前・午後：問診、診察、診断、治療方針

病棟

午前：受け持ち患者の診療、診察、処置

午後：受け持ち患者の特殊検査、処置

手術

適宜

後期
3・4 年次

1. 主治医として、諸検査を自主的に行い、自ら診断治療方針を決め、チェックを受けこれを実行する。
2. Junior Resident の相談を受け、諸調査の実技を指導する。
3. Case Report を発表、また論文を書く。

研修教育プログラム

症例検討会・抄読会 月～金曜 8:00-8:45

各グループ（リウマチ・脊椎・外傷・手の外科など）の集会 月1～2回



骨折等の外傷は全員で対応しています。

MIPO（最小侵襲プレート骨接合術）も取り入れて幅広い治療の選択肢を患者さんに提供しています。関節外科も件数が増多しており、特に膝関節はTKA, UKA, HTO、関節鏡視も含め2014年は381件施工と積極的に取り組んでおります。

スポーツ専門外来も開設し、金曜午後と土曜日午前に専門外来を行なっています。

手術件数は最近5年で増加傾向にあります。

整形外科部長 平野浩司